

一人ひとりに合った環境の中で、身の回りのことややってみたいことに意欲的に向き合って、自分の世界を広げていく。



◎クレヨンが色のついた棒というひとつの素材として探究されて…

クレヨンでお絵描きをしていたわかちゃん。クレヨンでたくさん色を重ねながら、「あれ？色がつかない」「違う色になった」など、実験を繰り返して、その変化を確かめて楽しんでいました。

大人がクレヨンを握ると、つい、何かの絵を描こうとしてしまうのですが、こんなクレヨンの楽しみ方や深め方もあるのか！と、わかちゃんの姿に気付かされるものがありました。子どもたちは、いつでも研究者であり、探求者ですね。



◎観て楽しむ側からやって演じる側へ…

大人がいつもみんなと歌っていた、ぐんぐんさんに人気の『ぶたの散歩』の手袋シアターですが、しょうたくんが自分で動かしてみたい！と挑戦してみた場面です。今まで見ていたものを、今度は自分からみんなに…しょうたくんの挑戦心や世界の広がりを感じました。

歌の最後に合わせて「チェ！」と上手におおかみを動かしてくれて、ちっちさんたちも興味津々。お友達のやりたい気持ちを自然と受け入れてくれるクラスの雰囲気もステキですね！

①と②の保育目標にも当てはまる内容でもありますよね。



屋上の一角が子どもたちの“研究所”になりました



大人が何気なく坂道にして使っていた板を、はるきくんも『やってみたい！』とすぐに遊びに取り入れていました。



はるちくんは、小さな小さな容器の口からどうやって土を入れられるか、いろいろなスプーンやスコップを使って試して、実験していました。

屋上の環境も、子どもたちがじーっくり遊び込める空間になっていました。土遊びが好きな子が多いので、ここの花壇は土遊びゾーンに。



何十分も黙々と同じことをやってみたり、繰り返してみたりする姿がたびたび見られました。ここはまるで子どもたちの研究所みたいですね…！年末にチューリップの球根植えをクラスでしてから、土に触れることがとっても楽しそうな姿があり、それをきっかけに始まった、屋上の土遊びでもありました。



わらす組から借りてきたお砂場道具もまた、子どもたちには新鮮でヒットしたようです。形やサイズもさまざまなので、例えば上記のはるちくんの“実験”のように、色々な遊びや探究が生まれてきます。